

# ヒルケルさんの思い出



1979年 67才のヒルケルさん

エーリヒ・ヒルケル S. J.

1912年 3月13日	ドイツにて誕生
1936年 4月1日	イエズス会入会
1939年 8月16日	来日
1940年 3月25日	六甲中学校着任
1984年10月9日	帰天



1949年10月16日 運動会にて、7期生(高3)と

1984年10月9日、当時浪人生であった私はヒルケルさんのお通夜に参列しました。そのころ私にとってヒルケルさんといえば、高3の送別会や初蹴りで挨拶なさるドイツ人のおじいさんという印象しかありませんでしたが、先生方、先輩方の言葉の端々からサッカー部、そして六甲学院に多大な貢献をなさった方だという事をうかがい知ることが出来ました。そしてこの度の50周年にあたり、ヒルケルさんの存在の大きさを改めて知ることが出来ました。

——「わしら、サッカー部の応援、しょっちゅうしてもらいよった。とにかくヒルケルさん、サッカー部をものすごく応援してくれてな。俺が小さいパンツはいとったら、かわいそうや言うて、俺が好きではいてるのに、パンツ、ヒルケルさん俺に買ってくれて…」(7期・安田)

なにしろサッカーの盛んなドイツ出身ということもあり、サッカー部の創部はヒルケルさんにとって非常に大き

な喜びであったのでしょう。食料が不足していた当時に、ヒルケルさんは別館の皆さんの食料を調達するだけでなく、サッカー部にもいろいろと差し入れをして下さいました。ヒルケルさん自身はビールとスイカが好物だったのですが、料理の方の腕前もなかなかのものであったそうです。

——「僕も魚料理とか作ってもらったけど日本食もうまかったよ。あと、僕が高2の時、ユニフォームをアメリカ軍からもらってきてくれて、襟が黄



1961年 19期生、佃先生とご歓談中のヒルケルさん

色で、その他がこげ茶色の、50何番とか100何番とかの背番号のアメフトのユニフォームやったね。それから、ゴール(!)も作ってくれはったよ」(12期・佃)

そう。鉄工所にいらっしゃったヒルケルさんにとっては、料理よりサッカーのゴールの方がお手のものであったのかも知れません。

——「サッカー部の面倒はほんまによう見て頂いてね。先生以上やったね。試合も全部来て

下さって。初めの頃は生徒が弟みたいな感じやったやろうし、それから息子見てるみたいになって、後になったらおじいさんみたいに思ってたんやろうね」(12期・佃)

現在の現役生はもちろん、若い世代はヒルケルさんのことを直接には存じ上げないわけですが、OBチームの「六甲ヒルケル」にその名前は受け継がれています。1975年に誕生した六甲ヒルケルは、まもなく神戸市社会人1部リーグなどで優勝を飾り、一躍神戸市

社会人の強豪チームとなったことは皆さん御存知の通りです。78年にはヒルケルさんを団長としてヨーロッパ遠征を行いました。ベルギーやドイツをマイクロバスで巡ったその遠征は、ヒルケルさんにとっては久しぶりの里帰りでもあったのです。

——「ドイツでタクシーに乗った時、ヒルケルさん、日本語で運転手に話かけんねん。ドイツ語と、日本語とごっちゃになって。ずっと日本にいたからもう日本人に近くなってて

# ヒルケルさんの思い出



1957年正月 六甲駅にて



グラウンドびらきにて

んね」(34期・西村)

ヒルケルさんは結局その生涯の大半を日本で過ごされました。ドイツに帰られて、つい日本語が口をついたというこのエピソードは、おかしいけれど、少しかなしいエピソードに思われます。しかし、祖国を離れ、この極東の地の、山の上の学校で、ヒルケルさんはその日本語で多くの貴重な言葉を残して下さいました。

——僕が12年前、阪急六甲に建設事務所を開設した時、洋酒を1本持ってひょっこり訪ねて

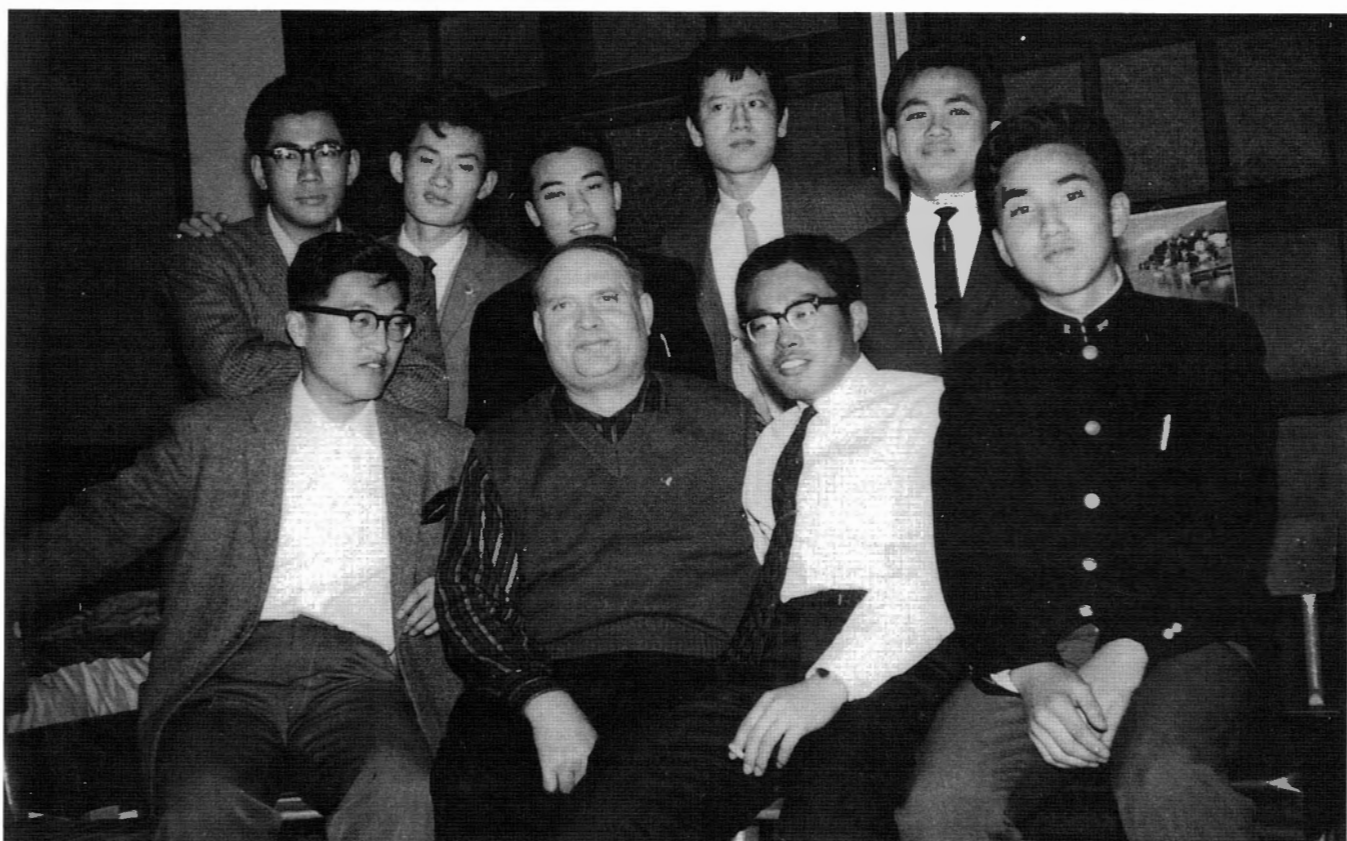
こられて、あの聞きにくい日本語で、「ゼーゼー湯川ココノ家賃高いとちゃうか？ ヴォホーヴォホー仕事無いとちゃうか？ (タバコをメリメリと吸って) お母さん心配させたらあかんぞォ、アホゼーゼーヴォッホ」

それだけ言ってユッサユッサと帰っていった。言葉は心を動かすと言うけれども、僕は人の心を1センチも動かさないまま46才になり、あの人

の言葉は今も僕達の心をゆり動かす。(23期・湯川)

41期の私はヒルケルさんの言葉を覚えていません。しかし、ヒルケルさんが育てて下さったサッカー部は、私達を育ててくれました。そしてその名前を戴いた六甲ヒルケルは私達にサッカーの喜びを教えてくれました。今もなお、我々はヒルケルさんに多くを負っているのです。

41期 本多克己



### 40年日本にいて六甲学院サッカー部に30年!!

1939年 私が日本に着いた時27才でした。その時、六甲中学校は3年目を迎えていました。そして7期生から、サッカー部がスタートしたのです。その30年の間、様々な思い出があります。近畿大会や、その他をみてもやはり六甲はファイト・スピリットがありました。チームにおいて友情がある事は心強いものです。現在の中学生・高校生又、卒業生も、その大切な事を忘れないで下さい。

私は昔から今まで色々な試合を見にいきました。日本に来た当初は、判らない事がたくさんありましたが、しかし、長い経験によって色々な事が判ってきました。けれども私は若い人を信じています。振りかえってみても喜ばしい事ばかりです。度々、昔を振りかえってみて、サッカー部の友人を思っています。出来る事なら8月12日に皆さんの顔を是非みたいものです。どうぞよろしく願います。

思い出多い古いO・B是非お会いしましょう。

1979.5.1.

*Erny Gilman*

